



私達が気づかない 街のやさしさ

大阪府立水都国際中学校

2年

おぎ た なつ か
荻田 夏叶

「あれっ、ここってこんなに沢山スロープがあったっけ？」

学校からの帰り道、私はふとこんなことを思いました。電車で学校に通う私の登下校中の道のりを見渡してみると、身の回りにはスロープを含め、車いすの方に対しての沢山のサポートが行われていることに気が付いたからです。そこで、もっと身の回りにある「やさしさ」について知りたいと思い、とある駅や路地などの工夫を探してみることにしました。

始めに、普段から使用している身近な場所での調査を行いました。【写真1】は、段差がある道の一部を緩やかな坂の形に近づけ、車いすを使用している方々は勿論、誰もが安心して通れるように配慮が行われている場所です。また、【写真2】から【写真4】は、階段ではなくあえてスロープの形状になっている道です。道の幅は広く、どのスロープも車いすが通れるぐらいのものでした。

ここまでの調査の場所は、車いすの方だけではなく、そのあたりを利用するすべての人に対する配慮がなされていると言えるのではないのでしょうか。私たちは、普段から何気なくこれらの道を使用しています。しかし、階段のある所を想像してみると、やはり車いすを使用している方にとっては、スロープが身近にあることが、安心した日々を送ることに繋がっているのかもしれないなと改めて感じました。

次に、駅の中も調査してみることにしました。【写真5】から【写真8】を見てわかる

通り、駅の中では沢山の車いすマークを発見することができます。どれも同じマークではありませんが、それぞれ役割が違っていることに気が付きました。まず【写真5】のマークの場所では、電車に乗る際に手助けを必要とする方が、黄色いボタンを押すことで、駅員とのやり取りができるというシステムになっています。また、【写真6】は車内の様子で、車いすやベビーカーを使用している人専用のスペースです。車内は揺れたりすることがあり、万が一にも転倒すると危険なので、このようなスペースはとても必要だなと感じました。【写真7】はエレベーターを使用する際の専用ボタン、【写真8】はバリアフリースイレの存在や場所を表しています。これらの場所を必要としている人がいるということを考えると、マークなどはとても重要な役割を果たしていることがわかります。

それから、他にも【写真9】のように、幅が広めの改札があることで、車いすを使用している人たちが気軽に公共交通機関を使用することができるのだと思いました。

私は普段から、階段でもスロープでも、どちらでも不自由なく使用することができるため、身の回りにあるものがどれだけの役に立っているのかなどを考える機会があまりありませんでした。しかし、この機会を通じて、これからは、これらの場所がただの通学路ではなく、私たちの街にさらにはたくさんの優しさが増えてほしいなと思っています。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9